

ホームページはこちらから

大阪大学未来基金

検索 

www.miraikikin.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来基金

活動のご報告とご寄付のお願い



総長ごあいさつ

大阪大学の夢 「世界10指の大学」を目指して



大阪大学は、緒方洪庵が1838年に創設した「適塾」を原点に、市井の人々の熱意に支えられながら、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、我が国を代表する総合大学として、たゆみなく発展を遂げて参りました。平成25年は、適塾創設175周年、緒方洪庵没後150年という歴史の重みを感じつつ、22世紀に輝く大学として更なる発展を目指しています。

21世紀の社会が、地球規模で複雑に絡み合う幾多の難題に直面する中で、我が国の将来は、ひとえに人材育成にあり、また学術の振興なくして革新的な技術開発や、心豊かで平和な社会の発展はあり得ません。わたしたちは、「学問と教育の府」として、大学でしかできない基礎的学術研究や、様々な分野で指導的立場に立てるグローバル人材を世に送り出すことこそが大阪大学の使命であると考えています。

大阪大学は、創立100周年を迎える2031年には、研究型総合大学として世界で10指に入る大学になるという夢があります。そして学問と教育の府である大学こそが未来の源泉であり、未来を切り拓く力そのものとの信念を持って、大阪大学全構成員の英知と力をあわせて日夜努力しています。

大阪大学未来基金は、この夢を実現するための礎です。

創立100周年を迎える2031年には、未来基金100億円を目指し、22世紀においても輝き続ける大学の基盤を築きたいと考えています。大学の詳しい活動等に関しましては、大阪大学ホームページ(www.osaka-u.ac.jp)をご覧ください。

大阪大学の卒業生の方々をはじめ、広く地域市民の方々や企業の皆さまには、夢の実現に向けて大阪大学未来基金へのご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

大阪大学総長 **平野俊夫**

世界トップクラスの大学として輝き続けるための基盤づくり

大阪大学は、平成24年12月に「未来戦略機構 (Institute for Academic Initiative)」を設置しました。未来戦略機構では、総長の強力なリーダーシップのもと、中長期的視野で全学を俯瞰しつつ、大学全体で取り組むべき横断的な教育・研究を機動的にマネジメントすることが狙いです。

機構には、「教育・研究推進部門」と「戦略企画室」が設置されています。教育・研究推進部門では、リーディング大学院5部門と、3研究部門が設置され（平成25年6月現在）、時代に即したグローバル人材の育成と、世界トップレベルの学問分野の育成と創成に取り組めます。戦略企画室は、教育研究活動のマネジメントを支援し、教育改革や、新たな研究、グローバル化に関する戦略の企画、提言を行います。

未来戦略機構の役割は、各部局における専門分野の教育・研究を“縦糸”とすると、これらを束ねる“横糸”であり、個々の部局の自主性・専門性を尊重し、多様性を維持しつつ、戦略的に大学全体の発展を考える司令塔機能にあります。また異分野融合領域を新しく開拓するインキュベーション機能を持つことにより、新しい学問分野の創成を行っていきます。

未来戦略機構の運営を通じて、総長のリーダーシップのもと積極的に大学改革に取り組む



分野横断的な教育研究を加速中

時代に即したグローバル人材育成に取り組む「博士課程教育リーディングプログラム」

深い専門性と、汎用的能力を身につけ、グローバル社会で活躍する人材を育成することを目指す大学院の教育プログラム。



インタラクティブ物質科学
・カデットプログラム



ヒューマンウェアイノベーション
博士課程プログラム



未来共生イノベーター
博士課程プログラム

世界に誇る新研究分野の育成と創出を担うインターフェイス

免疫学フロンティア研究の推進

現在WPIプログラムで推進されている免疫学フロンティア研究が引き続き世界をリードできるように取り組んでいきます。

創薬基盤科学研究部門

創薬研究のポテンシャルを高める基礎研究と応用化研究の環境整備により、社会に還元するための創薬を実践していきます。

認知脳システム学研究部門

脳研究を仲介に、認知心理学研究、人間指向のロボット研究を有機的に結びつけ、人間に親和的な情報・機械システムを創成します。

光量子科学研究部門

本学の光量子科学に関するコアコンピタンスを集約・収斂し、世界トップレベルの研究開発を先導し、学術・産業の改革に繋げていきます。

グローバル化の強化推進

大阪大学は、日本人学生と留学生が互いの文化を理解し、切磋琢磨する環境づくりを目指しています。

【2020年までの目標値】

海外に送り出す
日本人学生 4% → 8%

海外からやって
くる留学生 8% → 15%

学部生
(正規及び短期留学生) 4% → 10%

大学院生
(正規及び短期留学生) 15% → 25%

チャレンジする学生たち

議論を通して
個性を出しあい
切磋琢磨できるのが魅力。



幅広いテーマの議論を通して
専門を社会に生かす
スキルを磨く。



生川 佳奈 さん
生命機能研究科 修士2年

他大学の工学部で学び、製薬・創薬関係のベンチャーキャピタルを目指していましたが、「今のうちに土台をもっと作ったほうが良い」とアドバイスされ「超域イノベーション博士課程プログラム」に参加しました。議論では実践的に学べるほか、英語での思考方法も身につけてきました。議論を通して個性を出し合い、切磋琢磨できるのが魅力です。



永野 満大 さん
国際公共政策研究科 修士2年

労働経済学などを学ぶ中で、理論を社会に直接活かすためのスキルを磨きたいと思い「超域イノベーション博士課程プログラム」に参加しました。幅広いテーマを題材に議論する機会があり、自分と違った多角的な視点に気づかされます。専門を社会に打ち出したいという意欲を持った人に、このプログラムに参加してほしいと思います。

超域イノベーション 博士課程プログラム

文部科学省から採択を受けたプログラム。毎年20名の若き精鋭が選抜かれ、専門性と汎用性の両方を身につけるべく、教育研究に励んでいます。

「教養」という引き出しを生かし、 専攻分野を突き詰めていきたい。

様々な分野の授業を選択し、科目間のつながりや専攻分野との関連に気付いたり、すべて意味のある学びでした。教養という引き出しができましたので、これからも今まで学んだ知識を生かし、専攻分野を深く突き詰めていきたいと思っています。

(文系・女性)

一人ひとりの興味に応える 幅広い選択肢は大阪大学の強み。

教養教育で一人ひとりの興味に応えることができるほど選択の幅が広いのは、大阪大学の強みだと思います。講義は最先端の研究に取組む先生方によるもので、わかりやすく興味をかきたてられました。恵まれた環境での講義は大きな力となりました。

(理系・男性)

教養教育優秀賞

教養課程での成績優秀者を表彰する大阪大学独自の制度で、未来基金が支援しています。

グローバルキャンパスの実現に向けて

日本企業のグローバルな
事業展開に貢献したい。



留学経験を生かし、将来は
色々な国の人たちを
つなぐ存在に。



禹 明勲 さん(韓国出身)
工学研究科マテリアル工学専攻 修士2年

学部生の時に交換留学生として日本を訪れ、日本文化に興味を持ちました。「アジア人材育成コース」を知り阪大の大学院に進学しました。就職が決まったインターンシップ先の企業では、会社の理念を研究者一人ひとりが実践していることに感銘を受けました。グローバルな事業展開に少しでも貢献したいと思います。



丁 琦 さん(中国重慶出身)
工学研究科機械工学専攻 修士2年

「アジア人材育成コース」は先生のサポートがキメ細かく、安心して学ぶことができました。インターンシップ先の企業に就職も決まりました。厳しいイメージのあった日本企業ですが、皆さんが活き活きと意見交換している姿に、大変ひかれました。将来は、異文化交流の経験を活かし、色々な国の人たちをつなぐ役割を果たしたいと思っています。

グローバルな視野を広げ、
中国の環境問題に
取り組みたい。



王 格 さん(中国湖南省出身)
経済学研究科 修士2年

中国で大学生活を送りながら、卒業後は日本で学びたいと考えていました。2年間研究生としてすごした後、経済学研究科に入学し、中国の環境問題などを研究しています。阪大は、多くの留学生が学んでおり、国際色豊かなキャンパスです。グローバルな視野を広げて、将来は中国の環境問題に貢献できるようになりたいと思っています。

大阪大学で 学ぶ留学生

大阪大学では、日本人学生と留学生がお互いの文化を理解し切磋琢磨する環境(グローバルキャンパス)の実現を目指し、積極的に留学生を受け入れています。取組みの一つ「アジア人材育成コース」は産業界との協働で、アジアから優秀な人材を獲得し、アジアに拠点を置いたものづくりを展開するリーダーの育成を目指すプログラムで、未来基金が支援しています。



複眼的にモノを見ることができる 多様性をもった人材育成で、 グローバルな戦いを勝ち抜く。

樋口 泰行 氏

日本マイクロソフト株式会社 代表執行役社長
マイクロソフトコーポレーション コーポレートバイスプレジデント

大阪大学、大阪外国語
大学卒業生の交流イベ
ント「大阪大学リーダ
ーズフォーラム」でご講
演いただきました。



—— 学生時代の思い出をお聞かせください。

工学部電子工学科を昭和55年に卒業しました。電子ビーム(電子顕微鏡)が専門です。ただ正直なところ、学生時代はあまり勉強をしませんでした。よく4年で卒業できたと言われています(笑)。

むしろ社会人になってから勉強しましたね。目標を定めて、近づくためにチューンアップするという感じでしょうか。卒業して10年で、ハーバード大学にも留学しました。

—— 豊中キャンパスを久しぶりに訪問されたそうですが、どのような印象でしたか。

イ号館(現:大阪大学会館)を訪れたのは35年ぶりです。昔のイメージのままに、きれいに生まれ変わっているのは本当にびっくりしました。中山池の周囲も整備され、雰囲気はものすごく良いですね。それから大阪外大との統合の効果でしょうか、女子学生が大変多く、キャンパスが華やかになった感じがします。

—— 企業経営についてご意見をお聞かせください。

企業を取り巻く環境は大きく変化しています。多くの企業がグローバルな市場での戦いが求められる中、過去の成功体験にとらわれ、狭い世界に閉じこもってはいは、新しいビジネスモデルを産みだせないと思います。これから求められるのは複眼的にモノを見ることができる多様性をもった人材です。その意味では、リーディング大学院の「超域コース」は大変興味深い取り組みです。先般、「超域コース」の学生さんとお会いする機会がありましたが、みなさん優秀でポジティブで、将来が楽しみです。



整備された大阪大学
会館(旧イ号館)の周
辺。「第7回豊中市都
市デザイン賞」受賞

—— 大阪大学へ期待すること

まず、企業を活性化させるためには、大阪人気質はぴったりだと思います(笑)。

明るく陽気に、人と人をつなぐ。根性を持って、チャレンジする。まさに今、求められるリーダーシップではないでしょうか。阪大生は適任だと思います。

大阪大学に期待することとして、3点あげさせていただきます。

まずは産学連携の更なる推進です。基礎研究分野に加えて、ビジネスの領域にもどんどん取り組んでほしいと思います。

次に人材育成面です。グローバルに活躍し、組織間連携ができる人材を育成し、社会に輩出してほしいですね。世界の景色を見て、組織間の「糊付け」ができる、推進力のある人材です。

最後に、卒業生同志がつながる場を、今まで以上に設けてほしいと思います。

外から拝見しても、平野総長のリーダーシップで、阪大では色々な取組が加速度的に進んでいることを感じます。これからも大阪大学に期待しています。

プロフィール

1980年大阪大学工学部電子工学科卒業。松下電器産業、ボストンコンサルティンググループ、アップルコンピュータ、コンパクトコンピュータを経て、日本ビューレット・パカード株式会社、株式会社ダイエーの社長を歴任。2007年日本マイクロソフト代表執行役員兼COO、2009年より現職。



学生時代、研究室のメンバーと

未来戦略機構が挑む、新しい研究・教育の可能性とは。

大阪大学未来戦略シンポジウム ～未来へ始動～

平成25年6月1日(土)に、「大阪大学未来戦略シンポジウム～未来へ始動～」を、いま注目のうめきた・グランフロント大阪で開催しました。大阪大学が新たに立ち上げた未来戦略機構が挑む新しい研究・教育の可能性について平野俊夫総長が講演したほか、国や経済界から大阪大学に寄せる期待について来賓の皆さまにご講演いただきました。

今回のシンポジウムでは、現在進行中の博士課程教育リーディングプログラムの新たな大学院教育への挑戦や、未来を切り拓く異分野融合研究の取り組みとして創薬基盤科学や認知脳システム学、光量子科学についても報告しました。



全国の理系学生の祭典で、阪大生6名が表彰。

サイエンス・インカレ

平成25年3月に幕張メッセ国際会議場で文部科学省主催の第2回サイエンス・インカレが開催され、大阪大学から6名の学生が表彰されました。

サイエンス・インカレは、全国の理系学生に自主研究を発表する場を設けることにより、理系学生の能力・研究意欲を高め、創造性豊かな科学技術人材を育成することを目的として開催されているものです。

大阪大学では、引き続き、未来の人材育成に向けての取組を進めていきます。



大阪大学のルーツ、33年ぶりに展示を一新。

適塾

平成25年は、緒方洪庵の没後150年、および洪庵の開いた適塾の創設175周年にあたります。この記念の年に、天皇皇后両陛下が6月25日(火)に大阪大学適塾センターをご訪問されました。改めて、大阪大学の創基以来175年の歴史の重みを感じます。

そして、適塾記念センターでは、適塾の一般公開以来、33年ぶりに展示を一新し、4月より公開を始めています。今回、豊富な資料(レプリカ)とそのわか



りやすい解説パネル、系統立てた展示の流れの見直しにより、新しい研究成果を踏まえつつ、洪庵の業績や塾での学びや生活がより身近に感じられるよう大きく改善されました。これを機に、大阪大学のルーツである適塾へぜひ足を運んでください。

7大学合同の体育大会が 大阪大学で開催。

七大戰

北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州の7つの国立大学が合同で開催している体育大会です。七大戰という愛称で親しまれています。平成25年度(第52回大会)の主管校は大阪大学です。

大阪大学は、第49回、50回大会で連覇を達成するなど、近年はめざましい活躍を見せています。



第52回マスコット
タイコウくん

吹田グラウンドが 人工芝となってリニューアルオープン。

グラウンドの人工芝化

平成25年7月に、吹田キャンパスの陸上競技場が人工芝グラウンドに生まれ変わりました。グラウンドのリニューアルを記念して、7月2日(火)には現役の学生や卒業生が参加してオープニングセレモニーが行われました。

このグラウンドでは、陸上競技のほか、サッカー、アメリカンフットボール、ラグビー、ラクロスなど様々な課外活動を中心に活用される予定です。

大阪大学未来基金の収支のご報告

平素より、大阪大学未来基金に多大なご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。これまでご支援いただきました皆さまに、御礼申し上げますとともに、基金の収支状況を報告させていただきます。



理事・副学長 阿部 顕三

基金の収入総額は、27億54万7,340円となりました。皆さまからの7,000件以上のご寄付に合わせ、学内基金等の組入れ分を含んでおります。支出総額は5億5,244万3,660円です。奨学金支給など事業支出が約1億1,580万円、「大阪大学創立80周年記念事業」などあらかじめ目的を指定した事業支出が約4億3,121万円、活動費への充当が543万円となっております。この結果、平成25年3月末日現在の残高は、21億4,810万3,680円となりました。

大阪大学未来基金は、大阪大学が目指す、“グローバルで未来志向”の人材育成を支えるべく、活動をさらに活性化していきます。そのためにも、一人でも多くの卒業生の皆さまや、広く地域の方々、企業の皆さまに基金の趣旨に賛同いただき、ご協力を賜れるよう働きかけを進めて参ります。そしていただきましたご寄付は、自ら努力する学生に対する顕彰や、海外留学にチャレンジする学生のサポート、若手研究者の支援など、“人材育成”のために活用させていただく所存です。

大阪大学が、「未来戦略」を着実に推進し、“22世紀に輝く大学”であり続けるためにも、引き続き皆さまお一人おひとりのご協力をお願いする次第であります。

どうか本基金の趣旨をご理解いただき、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

大阪大学未来基金の収支状況

平成21年5月1日～平成25年3月31日

内 訳		金 額 (円)
収 入	寄 付 受 入	2,684,199,410
	運 用 益	16,347,930
	小 計	2,700,547,340
支 出	事 業 支 出	547,012,519
	活 動 費	5,431,141
	小 計	552,443,660
基 金 残 高		2,148,103,680

■ 基金の運営について

基金の支出は、学外有識者を含む大阪大学未来基金運営委員会で、事業目的、資金使途等を審議のうえ決定するプロセスをとっております。

■ 基金の運用について

基金は、国立大学法人法で認められている有価証券(地方債)のほか、現預金で保有しております。

グローバル人材の育成や、
教育研究活動の充実のために活用します。

大阪大学未来基金は、皆さまからのご寄付を基金として運用し、将来の大阪大学の研究活動の推進や、未来の阪大生の人材育成に活用するほか、現在の学生や研究者の教育研究環境の充実のために還元しています。

特に平成25年度より、大阪大学が目指す“グローバルキャンパス”の実現に向け、海外留学プログラムに挑戦する学生へのサポートを充実させるほか、教養、専門課程の成績優秀者への顕彰を実施するなど、人材育成のための支援活動に積極的に取り組んでいきます。



大阪大学未来基金による事業の事例

「教養教育優秀賞」「専門教育優秀賞」

自ら努力する学生を応援しています

教養(共通)教育、専門課程の成績優秀者に対し、その努力を讃えて表彰するとともに、副賞を授与しています。

「グローバル化推進事業」

世界に羽ばたく学生を支援しています

語学研修や海外フィールドスタディ、海外インターンシップなどの海外留学プログラムに挑戦する学生の参加費用の一部をサポートしています。

「外国人留学生奨学金」

阪大で学び世界の懸け橋となるために

外国人留学生が、安心して学べるよう奨学金を支給しています。日本企業でのインターンシップ参加を通してより深く日本を理解する機会もあります。

「若手研究者支援事業」

研究者として活躍の場を広げるために

大学院生が国内外の重要な学会等に参加するための支援を行っています。研究者としての視野や人脈を広げるために機会を有効に活用できます。

ご寄付の方法

〈個人の皆さま〉

ゆうちょ銀行、全国の金融機関からお振込でのご寄付を受け付けております。同封の4連式払込取扱票をご利用ください。払込取扱票がお手元がない場合は、お手数ですが、基金事務室までお問い合わせください。また、その他の方法での寄付の申し込みも受け付けております。

■クレジットカードでのお支払い

大阪大学未来基金のホームページからクレジットカードによる寄付のお申し込みを受け付けております。ご利用できるカードは、VISA、MasterCard、JCB、AMERICAN EXPRESSです。

■定期的なご寄付のお申し込み

ゆうちょ銀行、全国の金融機関からの引き落としにより、毎年1回定額のご寄付をしていただくことができます。お引落しは、毎年、ご指定をいただいた月の27日となります。

■古本募金「Re: 本プロジェクト」

ご不要になりました古本の再生を通じたご寄付も受け付けしております。
詳しくは、大阪大学「Re: 本プロジェクト」(<http://re-bon.jp/>)をご覧ください。

〈法人の皆さま〉

専用の申込書がございますので、お手数ですが、大阪大学基金事務室までご連絡をお願いいたします。詳しい手続きを連絡させていただきます。

税法上の優遇措置について

〈個人の皆さま〉

■所得税控除

当該寄付金の額（年間総所得額の40%を限度とする）から、2,000円引いた額を当該年の所得から控除できる税法上の優遇措置を受けることができます。

■住民税控除

大阪大学への寄付金を個人住民税の控除対象としている都道府県・市区町村（例えば大阪市、吹田市、豊中市、茨木市）にお住まいの方は寄付金控除を受けることができます。

〈法人の皆さま〉

寄付金の全額を損金に算入できます。

ご寄付をいただいた方への顕彰

■感謝状の贈呈

ご寄付いただいた皆様に感謝の心を込めて、大阪大学総長から感謝状を贈呈します。

■ご芳名掲載

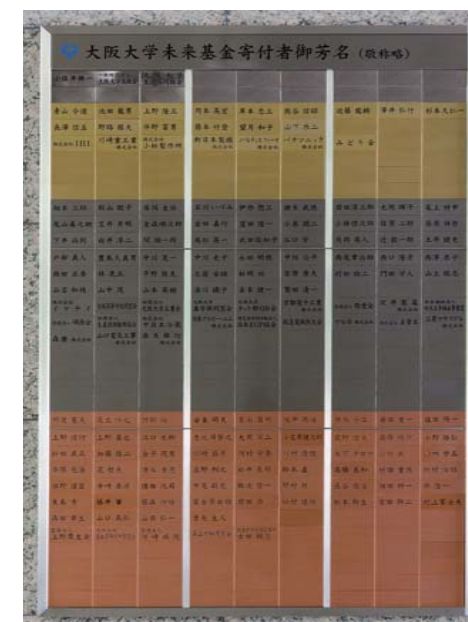
大阪大学のホームページにご芳名を掲載し、永く大阪大学の歴史に刻まさせていただきます。

■「大阪大学感謝の集い」ご招待

一定額以上のご寄付をいただいた方を、大阪大学総長が主宰する意見交換会「大阪大学感謝の集い」にご招待します。

■高額寄付者顕彰プレート

50万円以上のご寄付をいただいた方は、ご芳名をプレートに記し大阪大学中之島センターに掲示させていただきます。



【プラチナプレート】
5,000万円以上の寄付者

【ゴールドプレート】
500万円以上の寄付者

【シルバープレート】
100万円以上の寄付者

【ブロンズプレート】
50万円以上の寄付者

お問い合わせ：大阪大学 基金事務室

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
TEL.06-6879-8327 FAX.06-6879-4337
E-mail: kikin@office.osaka-u.ac.jp

ホームページはこちらから

大阪大学未来基金

検索

www.miraikikin.osaka-u.ac.jp